

国際研修 (コ05)

研究組織 加藤雅人、大川柚佳(以上、文化遺産国際協力センター)

目的 近年、日本の材料や道具、保存修復の理念が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に直接日本の技術や知識を伝える場が求められている。そこで、国内外において関係諸機関との共催あるいはそれらの機関の協力を得て研修等を開催することで、保存修復関係者への技術移転と情報共有を行う。

成果

1. これまでの研修の評価

本研修は平成4年度より文化財保存修復研究国際センター (ICCROM) と共催してきたが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により対面開催の中止を余儀なくされた。このため、近年の急速な社会変化への対応を見据えて、今後の研修の手法及び内容の改善に役立てることを目的に、研修評価を行った。オンラインで実施した評価セミナーでは、令和3年度に行ったIT技術導入の検討結果を踏まえ、講師による保存修復技術のデモンストレーションも提供した。

- 国際研修「紙の保存と修復」評価セミナー 2022 (Evaluation Seminar 2022, International Course on Conservation of Japanese Paper)を開催した。
期日：2022(令和4)年9月5日～7日、12日
主催：東京文化財研究所、文化財保存修復研究国際センター (ICCROM)
会場：オンライン
参加者：過去の研修講師、研修修了者(ウェビナー聴講者 各日約50名)
内容：口頭発表、研修内容のフォローアップ、ディスカッション



国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」

- 国際研修「紙の保存と修復」評価アンケート
回収期間：2022(令和4)年3月18日～5月11日
実施者：東京文化財研究所、ICCROM
対象者：研修修了者228名(回答者52名)
内容：研修内容の活用実態の調査
- 過去の研修運営資料、記録等の整理及びデジタル化
平成4年度～平成22年度分のネガフィルムとカセットテープのデジタル化を行った。

2. 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復 (Curso Internacional de Conservación de Papel en América Latina)」

本研修は下記三者の共催で平成24年度より実施しているもので、ラテンアメリカ諸国の文化財の保存修復に日本の材料、技術、方法論を導入、適用していくことを目的とする。令和4年度は、渡航制限の解除をうけて3年ぶりに現地にて、一部オンラインも導入しつつも対面で開催した。

- 期日：2022(令和4)年11月9日～22日(うち東文研担当は9～14日)
主催：メキシコ国立人類学歴史機構 国立文化遺産保存修復調整機関 (CNCPC-INAH)、ICCROM、東京文化財研究所
会場：CNCPC-INAH(メキシコシティ)
参加者：保存修復担当者9名(アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、スペイン、メキシコ、ペルー、ウルグアイ)

刊行物

- 『International Course on Conservation of Japanese Paper: Evaluation 2022 / 国際研修「紙の保存と修復」評価 2022』 23.3